

60% > %VC > 40% 群では運動負荷により i/V_T が安静時 38.6 から 40.8 と増加し、浅く速い呼吸様式へ変化し、 PaO_2 は、安静時 80.1 mmHg から負荷後 73.3 mmHg と低下し、 $PaCO_2$ は、安静時 39.0 mmHg から負荷後 43.3 mmHg と有意の上昇がみられた。

< 結 語 >

軀幹・四肢筋力低下の表現である障害度は、肺機能低下の推移を反映した。

障害度 VII 以上の群は、呼吸不全慢性経過時の患児として呼吸管理が行なわれることは勿論であるが吸気筋力の低下の始まる V, VI 度群より、呼吸不全への準備状態として考慮対処すべきである。

2) 人 DMP 及び筋ジスマウスへの腓エキスへの影響について

国立療養所川棚病院

森 一 毅 迫 龍 二 波 谷 統 寿

< 緒 言 >

腓エキスは高岡らによって哺乳動物の腓臓より抽出された薬剤で以下の効果が確認されている。(1)白血球を一過性に減少させ後増多させる。(2)血清Ca 及び尿素窒素を低下させる。(3)組織培養で *changs liver cell* への 3H -Uridine, 3H -Thymidine 等のアミノ酸取り込みを増加させる。(4)正常ラットの骨格筋肉のRNAを増加させる。又人DMPのFSH型において病勢進行を緩除する報告もあり人筋ジスへの効果が期待される薬剤と考えられる。実験動物中央研究所の江崎は腓エキスがDMP マウスC57BL/dy. dyに延命効果がある事を示唆し高岡らはFSH・L-G・Duchenne の順に病勢進行を緩徐にする事を報告している。そこで我々はDMP マウス及び人DMPにおいて治験を行なったので報告する。

< 実験方法 >

対象はC57BL/dy. dy 63匹を対象とし腓エキス群31匹には 0.05 mg/head (0.1 cc) を連日腹腔内投与、対照群32匹には生食水 (0.1 cc) を投与し延命日数を検討した。

< 結 果 >

Px 群では生存日数 239 ± 16.3 日、対象群では 182 ± 16.8 日でこれは推計学的にも 0.01 以下の危険率で有意であった。図(1)人DMPでは当療養所入院中の患者30名中52名を pick up し A 群に強エキス、B 群に弱エキス (強Px に対し60%力価) を連日 1 mg 筋注し比較した。表(1)、(2)は各群の内訳である。投与期間は1年3ヶ月である。治療の指標としては臨牀的には班会議基準の障害度及びADL. 検査ではCPK Aldolase, LDH, GOT, GPT, 尿 creatine 1日排泄量、creatin係数を毎月測定し効果の指標とした。

図1 Effect of Pancreatic Extract (PX) on Survival Time of Dystrophic Mice (C57BL/6J·dy/dy)

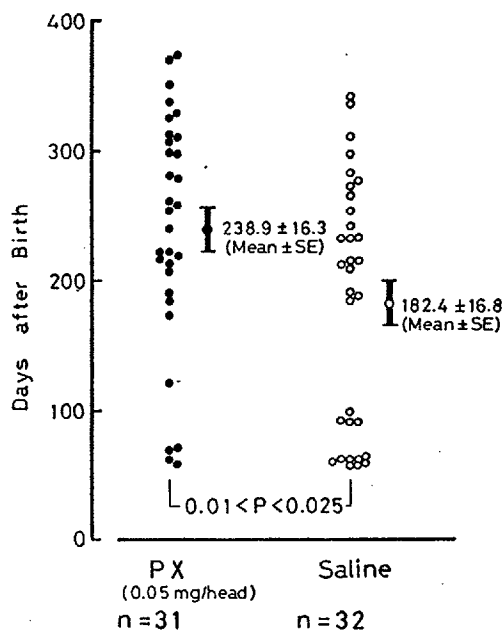


表1 A群(強エキス投与群)

No.	性	年齢	病型	CPK (Unit)	ADL (点)
1	♂	8	Duchenne型	2218	94
2	♂	9	・	844	73
3	♂	10	・	279	26
4	♂	11	・	717	71
5	♂	11	・	383	36
6	♂	11	・	523	54
7	♂	12	・	324	28
8	♂	12	・	354	32
9	♂	12	・	341	25
10	♂	12	・	334	27
11	♂	13	・	477	29
12	♂	14	・	686	42
13	♂	14	・	138	14
14	♂	14	・	147	14
15	♂	15	・	493	71
16	♂	17	・	142	15
17	♂	17	・	351	63
18	♂	18	・	237	15
19	♂	25	・	114	34
20	♂	25	肢帯型	76	23
21	♂	25	・	96	60
22	♂	32	・	59	44
23	♀	42	顔面肩甲上腕型	11	38
24	♀	15	女性筋ジストロフィー	159	23
25	♀	19	・	227	60
26	♀	22	・	134	44
27	♀	37	逸位型	18	13

表2 B群(弱エキス投与群)

No.	性	年齢	病型	CPK (Unit)	ADL (点)
1	♂	8	Duchenne型	711	51
2	♂	10	・	459	24
3	♂	10	・	946	51
4	♂	10	・	1537	67
5	♂	10	・	364	11
6	♂	11	・	542	21
7	♂	12	・	537	44
8	♂	13	・	739	73
9	♂	13	・	193	13
10	♂	14	・	273	20
11	♂	14	・	164	13
12	♂	15	・	291	28
13	♂	16	・	155	16
14	♂	16	・	1297	43
15	♂	16	・	309	75
16	♂	16	・	401	15
17	♂	18	・	231	22
18	♂	18	・	217	25
19	♂	23	肢帯型	202	71
20	♂	26	・	197	35
21	♂	34	・	117	70
22	♀	32	顔面肩甲上腕型	55	64
23	♀	8	女性筋ジストロフィー	1027	76
24	♀	20	・	144	17
25	♀	21	・	84	27

C PK等の酵素、クレアチン排泄量はA群、B群差は認められなかった。C PKはA群、B群共病勢進行と共に低値を示す傾向にあった。障害度の推移はA群平均0.88, B群 0.92でADLの推移はA群 11.8 ± 1.6 B群 15.8 ± 2.4 となりA群がやや病勢進行緩和の傾向を示した。しかしながらこの差は推計学的には有意の差とは認め難かった。(図2)

< 結 語 >

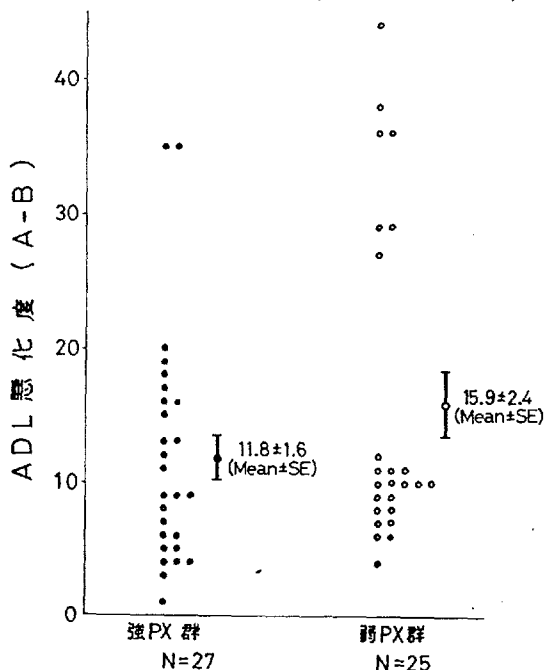
(1) 隣エキスは筋ジスマウスの生存日数を有意に延長した。その機序は筋蛋白合成可能によると考えられる。

(2) 人DMPの1年3ヶ月の投与実験ではA群がB群に比しやや病勢進行の緩和の傾向が認められたが推計学的には有意でなかった。今後力価の上昇及び投与期間によっては効果も期待されると推定した。

(3) 今後は治療前のHuman counterによるbody potassiwnを測定しているので今後のそれと比較し効果判定のIndexとし検討する。

図2. ADL 推移

A (昭和50年 6月 ADL)
B (昭和51年 9月 ADL)



22) 筋ジストロフィー症に対する Co-enzyme Q10 投与の影響について

国立療養所川棚病院

迫 龍二 森 一毅 中沢良夫

< 緒 言 >

Co-enzyme Q (Co-Q)はmitochondriaの電子伝達系に関与しATP生産を高めることが知られており最近DMPへの影響についての報告も敬見される。著者らはDuchenne型DMPにCo-Q10を長期投与し、この効果を臨床、生化学について検討した。

< 対象ならびに方法 >

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

<緒言>

胛エキスは高岡らによって哺乳動物の胛臓より抽出された薬剤で以下の効果が確認されている。(1)白血球を一過性に減少させ後増多させる。(2)血清 Ca 及び尿素窒素を低下させる。(3)組織培養で Changs liver cell1 への 3H-Uridine, 3H-Thymidine 等のアミノ酸取り込みを増加させる。(4)正常ラットの骨格筋肉の RNA を増加させる。又人 DMP の FSH 型において病勢進行を緩和する報告もあり人筋ジスへの効果が期待される薬剤と考えられる。